「着物が伝える日本の文化」

総合（伝統文化）　音楽　家庭

- 実施日　　令和７年１０月１日（水）　９：３０～１０：１５
- 実施校　　墨田区立押上小学校　６年生　７０名
- 講　師　　**坂東流　和文化はぐくみプロジェクト**　メンバー　４名
- 内　容　　① 講話　「日本の文化」っていったいなんでしょう？
  着物で畳の生活に必要な動き、ちょっとやってみましょう。
  ② 実技　座り方、立ち方のお稽古　正座　ご挨拶
  スリッパを脱いで座敷に上がる方法（スリッパの発明―日本）
  着物を着ているときに気を付けていること
  ③ 鑑賞　日本舞踊を鑑賞しながら学習
  人とすれ違うとき、雨が降っているときどうしていましたか？
  お互いのほんの小さな心掛けで気持ちよく暮らすことができます
  <u>着物から来た言葉</u>
  - 襟⇒　襟を正す(身なりを整える)　・ふところ⇒　懐が深い　懐具合
  - 袖⇒　振る　袖を引く　袖にする　袖を絞る　袂（たもと）を分かつ
  - 褄⇒　辻褄が合う　・おはしょり⇒　端折る（長いものを短くする）

  ④ まとめ　相手の気持ちを汲み、察して暮らすことが大切

【児童からの感想】

- 日本の相手に対して敬う姿勢はやっぱり大事だと思ったし、これから自分も取り組んで行きたいと思います。他にも１つ１つの細かいところに意識するだけでこんなにも違うんだと感じました。
- 最初、説明された時『あっ、確かにこんなことを意識したり、気にしたり、さらにそんなことを耳にすることすらなかったな』と思い、実際にやってみるとあまり難しくなかったので、『こんな簡単なことを意識すれば相手を敬えるんだな』と感じました。
- 家の入り方は家の主人に背を向けない、靴を揃えて隅っこに置くなど、礼儀がたくさんあるなと感じました。相手に敬いの気持ちを伝えるには言葉だけでなく所作もとても重要だということを実感しました。
- 正座を体験しましたが、ずっと座っていると本当に辛く、昔の人はすごいなと改めて実感しました。また、今日習ったやり方は、手を使わないで立ったり座ったりできるので、便利でした。
- まず、正座には正しい座り方の順番があるなんて初めて知ったし、何より着物でえり、ふところ・袖の部分があるのは知っていたが、「つま（褄）」というものがあるのを初めて知った。他にも「振られる」の意味などいろんな意味の真相を知れた。
- 先生に「足崩していいよ」と言われる前まで正座をしていたが、正直いうととてもきつく、足も痺れていて昔の人の座り方はこれが普通だったの？くらい衝撃を受けた！
- もう今ではやっている人を見かけない日本のマナーや、正座がそのまま正座をするのではなくて、右足を一歩引いてお尻をかかとに乗せてそこから座るなどの詳しい事を学べて、西洋文化が取り入れられてから色褪せてしまった色々な日本独自の文化に触れ合えた。
- 正座が思っていた数十倍はキツかったり、想像していた事でなくマナーは別の事が理由だったり、他国の文化が多く取り入れられてる事など、昔の人は当たり前のように出来ていた事も仕草などが変わった影響で難しくなって来ているんだなと感じた。
- 人に背を向けちゃいけないことを初めて知った。その態度が失礼になることがあるんだなという風に。座り方を学んでいる時に普段着だから少しスムーズにできたが、着物を着ていると考えたら足が痺れると思う。でも第一は人に敬意を持ってそれを行動で表すことが大事だと思った。
- 普段からあの座り方立ち方をするのは難しいなと思いました。でもスリッパとか見てて思ったけど、雑にされるよりやっぱり丁寧にやってくれた方がいいなという風に感じた。